

員伝達講習会に参加す

まだ大北地域の里では、雪景色の2月中旬、福井県福井市で開催された北信越ソフトボール協会の審判員・記録員伝達講習会に参加す

切国体」を合言葉に75

年ぶりに、大会から50年ぶりに、2巡回とな

る「福井しあわせ元気国体」が開催される」と地元のスポーツ熱は、講習会の至る所から感じられた。前回の国体では、人口100万人以下の県での初めての国体の開催、「親切国体」を合言葉に75

フリーード風 (現場)からの風

17

宮田
守男

る機会があった。約4時間での車の訪問。全く雪が無く、暖房の暑さが気にならぬ程の福井の会場だ。

福井県は、平成30年9月29日から10月9日までの11日間に、昭和43年に開催された第23回国民体育

万県民総参加で、天皇杯の獲得を成し遂げた事もあり、今回への取り組みの熱意と国体に寄せた思いは、心に熱く響いた。

今回の伝達講習会は、北信越地区(富山県・石川県・新潟県・

本年度の方針を、如何に伝えるのか。地区予選、県予選、地域予選、全国大会で同じ判断で

試合運営する事が大切だと伝え、地域ごとの判断が無いように指導の講習会。この講習会で伝達された事項を、各員がじっくりと伝達される。

ルール改正でも、オリンピック競技への採択願望が昨年から強く感じられるようになつた。今回、用意されし

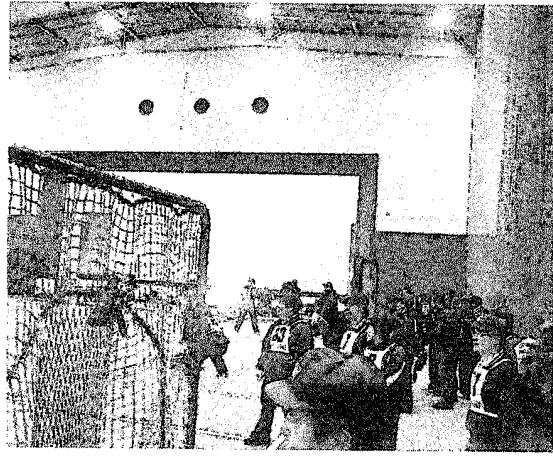
連盟ルール委員会の改正への対応にスピード感が増してきている。「試合のスピードアップ」を促すためのルール改正やそれに伴う審判員の位置の変更。審判員側からは、毎年繰り返される改正に

連盟ルール委員会の改正への対応にスピード感が増してきている。ルールだったが全文削除されたことでバラエティー豊かな靴がソフトボールの試合でも見られそうだ。学んだルールを地元に正確に

まで靴(シューズ)は、同色のものを使用するルールだったが全文削除されたことでバラエティー豊かな靴がソフトボールの試合でも見られそうだ。学んだルールを地元に正確に

伝達しなくてはいけないにせよ、これまでとは異なる気持ちにさせた伝達講習会でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



屋内運動場の実技伝達講習会、学ぶ意欲が会場を熱くする。